

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視 察 先	熊本県南阿蘇村
視 察 日 時	令和元年 5 月 14 日（火）14 時 45 分～16 時 30 分まで
視 察 項 目	デマンド交通について
視 察 者	大山正弘・石澤祐一・秋葉新一・海老名幸司・中里芳之 結城 正・高橋菜穂子
内 容	<p>1 視察研修選定理由 当市では市営バスとデマンドタクシーの2種類を運営しているが、市民の交通確保としての成果や課題を知るため、予約型乗合タクシーを運営している「南阿蘇村」を視察地として選定した。</p> <p>2 南阿蘇村の概要 南阿蘇村は、阿蘇カルデラの南部の南阿蘇といわれる地域に位置し、東側は中央火口丘から西南に穏やかな傾斜をなして、そこに水源を発する白川を低地としている。 標高 600m 以上は、その大部分を山林、原野で占めており、北は阿蘇山上、草千里、火口原を結ぶ戦場で区切られている。西は南阿蘇の入り口に当たり、白川が阿蘇谷を北から流れてくる黒川と立野火口瀬近くで合流し、白川となって熊本平野へと下っている。南は南外分水嶺から北向きの傾斜地で西部俵山一帯の高原地域までおよび、低地は東の水源地域から西へと 300m の標高差がある。中央を東から西へ流れる白川の両側には、住宅地、商業地、耕地の大部分が広がり、展望製のアル田園風景となっている。人口は 10,535 人（H31.5.1 現在）</p> <p>3 予約型乗合タクシー（デマンド交通）の運営について 現在、村内における公共交通機関として、ゆるっとバス 2 路線（バス会社に委託）、民間バス 3 路線、南阿蘇鉄道（現在熊本自身の影響で部分運行中）ゆるっと乗合タクシー（現在休止中）が存在しており、予約型乗合タクシーの運行は交通弱者や交通空白区域への利便性の向上を図るとともに、今後の「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするため、その運行情報をもとに公共交通機関ぜんたいの改善や更なる利便性向上へと反映させる位置付けとしている。</p> <p>【乗合タクシーの概要】 運行主体：南阿蘇村 運行携帯：区域運行（デマンド交通） 運行便数：南阿蘇村内全域（東西 2 地区に分割） 運行便数：1 日 8 便（予約型） 8：00～17：00 運行車両：ジャンボタクシー 2 台（東西地区に各 1 台配備）</p>

料金：1回大人 300 円、小学生 150 円、未就学児無料
※東西の区域をまたがる運行の場合は 2 回分の料金

【主な経過】

H28. 3.24 予約型乗合タクシー 実証運行開始

4.16 H28 熊本地震発生

4.28 予約型乗合タクシー運行再開

H30.10. 1 予約型乗合タクシー本格運行開始

【事業費について】

予約受付業務委託費（2 人分）：416,625 円/月

運行システム導入費：NTT 東日本で作成したシステムを
H27 年度 7,510,104 円（国費 6,900 千円、村費 610 千円）

運行委託費：日額 16,000 円/台（税抜き）

H30 年度 8,482,820 円

歳出総額：18,049,254 円（H30 年度）

歳入総額：1,899,700 円（タクシー利用料）

【運行状況】

利用者は利用登録をする。

電話での予約。

自宅または指定乗車場所に車両が迎えに行く。

降車は指定勝者場所に限定。

ジャンボタクシー2 台は村でリース。

運転手は地元タクシー会社（2 社）より派遣。

運行は平日のみとしている。

4 研修の感想

今回の研修で、運行システムを導入し、そのシステムでジャンボタクシーへも同じ情報が共有できており、すぐ対応できる体制であった。乗合タクシーは村民のみの足として友好に運用されていた。観光客は地元のタクシーやゆるっとバスで対応。迎えは自宅まで対応しており、高齢者等の弱者には大変ありがたい状況であった。限られた時間がなく残念でしたが、少しでも村山市でも生かさればということで大変有意義な研修となりました。

視 察 先	一般財団法人 WING SCHOOL (ウイングスクール)
視 察 日 時	令和元年5月15日(水) 14時45分～16時30分まで
視 察 項 目	ウイングスクールの教育について
内 容	<p>説明者 一般財団法人 WING SCHOOL 代表理事・校長 田上善浩</p> <p>1 目的 近年の教育ニーズは多様化しており、熊本にて開校した新しい形の教育現場を視察調査することとした。</p> <p>2 ウイングスクールの概要 所在地 熊本県熊本市中央区出水1丁目7-51 2018年4月に開校した小中一貫校 「熊本に理想の学校をつくる会」を経て、設立。 2021年、学校法人格の取得に向けて準備中 生徒数64名 (熊本、福岡、大分、宮崎、兵庫、マレーシア等から) 教員数8名、事務員1名、調理師1名、保健師1名 入学金10万円、授業料5万円/月、管理費12,000円/月</p> <p>3 教育方針と特徴について 「自分の翼を育もう」をスローガンに、子どもたちが幸せな未来をつくるための理想の教育の実現に向けて取り組む。 子どもたちが幸せな未来を築く力をつけるための教育空間を、感性・知性・プロジェクトの3つの教育活動を中心に行っている。</p> <p>①感性を育む活動 学校は、熊本市中心部ながら江津湖公園に隣接しており、そこに流れる小川は湧き水で泳ぐことができる。視察に伺った当日も、児童が川遊びをしたり、公園で散策していた。 公立学校に馴染めなかった子どもたちにとって、まずは心を開くための時間を十分にとっている。感性を土台にして知性を築くことを理念としている。</p> <p>②プロジェクト学習 感性と知性と並んで、プロジェクト力を育む。柔軟な発想で行動するため、子どもたちは能動的であった。将来の夢や希望をかなえるための力をつけることを目的とする。</p> <p>③オーガニック給食 給食は、煮魚とお浸しの和え物、玄米か白米、おみそ汁というオーガニックの食材と、化学調味料を使わない発酵調味料で作った給食を自分で盛りつけをしていただく。確かな味覚とライフスタイルについて学ぶ。</p> <p>④授業 もともと少人数の学校であるため、授業も少人数制であ</p>

る。分数の掛け算の事業を見せてもらったが、新卒1年目の先生ながら、よくトレーニングを積んでおられ、子どもたちの集中力を引き出した質の高い授業であることが見て取れた。

⑤地域との交流

ここに学校ができて良かったと言ってもらえるように、地域の方たちとの触れ合いを重視し、ウクレレを演奏してもらったり、田植えの体験をさせてもらったり、子どもたちに本物に触れてもらう等の活動を取り入れている。

3 おわりに

立ち上げから間もない中で、現状を見せていただき感謝する。校長先生の高い志で、今後の展開が楽しみである。都市部と違い、本市のような地方では教育の選択肢はほとんどないため、公教育の役割は大きい。

子どもたちの感性を大切にしたいという方針は、本市のGOGOプラントも重なる部分であるが、これからの新しい時代を生きていく子どもたちの生きる力の礎となるものと感じる。

校長先生は、「教育の力」を高め、授業を面白くすることこそが、最も重要なこととおっしゃるが、先生方も子どもたちも輝ける環境整備を行っていかなければならない。

視 察 先	和歌山県みなべ町
視 察 日 時	令和元年5月16日(木)10時00分～11時00分まで
視 察 項 目	デマンド交通について
内 容	<p>あいさつ みなべ町議会議長 下山 勤 説明者 みなべ町総務課長 土井 祥裕 みなべ町総務課係長 井上 弘</p> <p>1 みなべ町の概要 みなべ町は、平成16年10月1日、南部町(みなべちょう)と南部川村(みなべがわむら)が合併して誕生した町で、紀伊半島の西南部、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置します。丘陵地に広がる梅林は、「南部梅林」と呼ばれ、日本一のブランドを誇る「南高梅(なんこううめ)の栽培がおこなわれています。</p> <p>2 迂回ルート型デマンド交通について みなべ町内には、JR紀伊本線やバスが運行中であるが、これら路線を利用できる地区は一部に限られ、全町的に高齢化の進行が進んでいる。町村合併による「新まちづくり計画」の中で7、高齢者などの交通弱者の利便性向上などを図るために身近な交通機関を導入することが提案され、検討を重ねてきた。 町が運営する交通手段として、コミュニティバスとデマンドタクシーを運行することが適当かどうかを検証するため、2年6カ月間試行運行を実施し、平成19年4月1日から、迂回ルート型デマンド交通システム「みなベコミバス」として本格運行を開始した。 運行ルートは4ルートとし、運行日は各ルート週3日～5日、運行時間は8:00～18:00、運行間隔は3本～5本/日、運行車両は、9人乗りタクシー・5人乗りタクシーを使用し、運賃は大人300円・小学生150円で運行し、高齢者を中心に買い物や通院、また温泉などへの交通手段として利用されているこのこと。</p> <p>4 おわりに 利用者が減少傾向にあり、運賃収入が減少し、町負担の委託料が増えてきている課題があり、今後について検討中であるとのこと。 視察をする中で、当市でも運行ルート・運行日・運行車両を検討する際の参考にしていくべきと感じた。 近年の教育ニーズは多様化しており、熊本にて開校した新しい形の教育現場を視察調査することとした。</p>